



高成園《上海娘》(部分) 大正13年(1924) 本館蔵

美をつくし

vol. 197

大阪市立美術館だより
令和4年3月1日発行

MI WO TSUKUSHI
WI MO IZUKUSHI

華風到来 チャイニーズアートセレクション

2022年4月16日(土)―6月5日(日)

大阪市立美術館は1936年5月1日、日本で三番目の公立美術館として開館しました。86年の歴史を経た建物を改修して新たな100年を歩みだすために、2022年秋から約3年間の大規模工事を開始する予定です。長期の休館を前に、館藏品による当館ならではの特別展を開催いたします。

当館は開館以来8500件を超える作品を集めてきました。制作地やジャンルは多岐にわたりますが、なかでも中国と関連深い作品を多く所蔵することが特色です。その筆頭に、阿部房次郎(1868-1937)が収集した中国書画、山口謙四郎(1886-1957)

による中国の石造彫刻・工芸などの、関西経済人によるコレクションを挙げるすることができます。このほか、工芸・仏画・近世及び近代絵画といった日本美術にも、中国との関わりを示す多彩な作品が揃います。

本展は、当館の展示の柱である中国美術とその影響を受けた「華風=中国風」の日本美術を選りすぐって、中国文化の魅力と広がりをご紹介します。

海を越えてやってきた爽やかな華風を感じに、ぜひご来館ください。

(八田真理子)



1



3



2



4



7



5



6

- 1 《吳王伍子胥画像鏡》 後漢-三国時代・3世紀
山口コレクション
 - 2 《堆朱雲龍文層盒》 清時代・18-19世紀
カジュアルコレクション
 - 3 《豆彩蓮華吉祥文杯》 清時代・雍正期(1723-1735)
 - 4 王武《花卉冊》 康熙15年(1676)
 - 5 重要文化財 董其昌《盤谷序書畫合璧》(部分)
明時代・17世紀 阿部コレクション
 - 6 吳歷(款)《江南春色圖》(部分) 清時代・18-19世紀
阿部コレクション
 - 7 椿椿山《湖石牡丹図》 嘉永3年(1850)
- いずれも本館蔵 会期中、一部展示替えがあります。

藤木正一氏旧蔵中国石造彫刻について

— 中国彫刻をめぐるささやかな近代史 —



図1



図2



図3

「壁には岸田劉生の麗子像、安井曾太郎の風景画、宗達の蓮花図の額が掛かり、棚の推古仏の前には遼緑釉の香炉、根来の供物皿があり（中略）驚くことには漢の耳杯や李朝白磁の逸品が灰皿として出ている。」

藤木正一（1891-1967）は、山本鑑之進工務店を経て大阪で藤木工務店を創業し、銀行から住宅まで様々な建築施工に携わる一方、関西有数の美術コレクターとして知られた人物である。冒頭の一文は、晩年の藤木を自邸に訪問した邑木千以による邸内応接間の描写で、美術品に囲まれたその暮らしが垣間見られる〔註1〕。藤木の所蔵する陶磁器は開館間もない当館の展覧会に出品されているが、仏教美術にも造詣が深く中国石造彫刻も多数入手していたようである。豪華な大型本『支那上代彫刻』により、藤木が収蔵したその一部をうかがい知ることができる。

『支那上代彫刻』については以前もこの欄で紹介したが、同書は彫刻家の石川確治と住友合資会社工作部（日建設の前身）の建築家で東洋古美術コレクターの笹川慎一が編集を担当し、美術写真を専門とする坂本万七が撮影、柳宗悦による雑誌『工藝』の版元である聚楽社から1930年に250部が刊行された大判図版集で、作品解説などは付されていない。第一輯から第三輯まで発行され全32点の中国石造彫刻が掲載されるが、その所蔵者をみると関西は武藤山治、橋本関雪、山口謙四郎、笹川慎一、藤木正一ら、東京は細川護立や根津嘉一郎など錚々たる顔ぶれであり、コレクターによるコレクターのための写真集といった感すらある。なお、その後同書は聚楽社が三冊分を一冊に編集し直し1932年に再版されている。

同書に掲載される藤木所蔵の作品は6点あり、そのいくつかを図版と共に紹介したい。

□ 北魏・延興2年（472）如来三尊像（図1）

丸顔にふっくらとした腕が印象的な如来坐像を主尊とし、背面には釈迦の誕生・灌水の場面が浮彫されるなど、北魏前期の優品である。現在は奈良・大和文華館所蔵。

□ 北魏・正光2年（521）三尊像龕（図2）

地方性色濃い独特な衣文表現を特徴とする像で、おそらくは陝西・西安近郊で制作されたと考えられる。現在はワシントン・

フリアギャラリー所蔵。

□ 隋・開皇8年（588）鳳凰像（図3）

山西・天龍山石窟第8窟の窟内にある仏龕の縁取り装飾の一部としてつくられた鳳凰像を将来したもの。小野家を経て当館の所蔵となった。

このほかにも安宅産業を経て大阪市立東洋陶磁美術館の所蔵となった河北・響堂山石窟将来像などがあり、充実した作品群である。

さて、藤木と『支那上代彫刻』を編集した笹川慎一（1889-1937）は20年にわたる仕事上のパートナーであり、西洋絵画コレクターとして知られた岸本吉左衛門の本邸（1931年竣工、登録有形文化財・岸本瓦町邸、大阪市中央区）も、笹川が設計し藤木工務店が施工を担っている〔註2〕。さらに笹川の追悼文集に藤木が寄稿しているように、古美術の収集についても語り合う関係にあったようだ〔註3〕。なお笹川の収蔵品については没後の売立てに際して刊行された『笹川慎一コレクション』（1939年）によりその全貌を知ることができ、そのうち1点は上本家より当館へ寄贈されている。

中国石造彫刻を収集の中心に据えた山口謙四郎はもちろんのこと、総じて関西一円の著名なコレクターは、藤木をはじめとして数の多少はあれ中国石造彫刻の優品を所蔵していたようである。つまり昭和初期の関西には、現在は国内のみならず世界に散らばる様々な中国石造彫刻が集積していた状況にあったといえる。藤木正一が収集した作品群については不明な点が多いが、今後も大正～昭和初期の関西における中国石造彫刻コレクションの形成について情報を集めていきたい。

（敬称略）

註

- 1 邑木千以『愛蔵弁あり』浪速社、1965年、32頁。
- 2 山形政昭『建築家笹川慎一をめぐる』『大阪芸術大学紀要〈藝術〉』15巻、1992年。
- 3 長原玄編集『笹川慎一追憶集』笹川昭雄、1940年。

（齋藤龍一）

ドレスデン国立古典絵画館所蔵

フェルメールと17世紀オランダ絵画展

2022年7月16日(土)―9月25日(日)

本展の注目作品である17世紀のオランダ絵画の巨匠ヨハネス・フェルメールの《窓辺で手紙を読む女》は、窓から差し込む光の表現、室内で手紙を読む女性像など、フェルメールが自身のスタイルを確立したといわれる初期の傑作です。本作品は、1979年のX線調査で壁面にキューピッドの描かれた画中画が塗り潰されていることが判明し、長年、その絵はフェルメール自身が消したと考えられてきました。しかし、2017年の調査により、フェルメール以外の人物により消されたことが新たに分かり、翌年から画中画の上塗り層を取り除く修復が開始されました。2019年5月には、キューピッドの画中画が部分的に現れた

修復途中の作品が、記者発表にて公開されました。

本展では、この修復過程を紹介する資料とともに、大規模な修復プロジェクトによってキューピッドが完全に姿を現した《窓辺で手紙を読む女》の当初の姿を、所蔵館であるドレスデン国立古典絵画館のお披露目に次いで公開します。所蔵館以外では世界初公開となります。

また、ドレスデン国立古典絵画館が所蔵するレンブラント、メッソー、ファン・ライスダールなど、17世紀オランダ絵画の黄金期を彩る珠玉の名品約70点もあわせてご紹介いたします。



1



2



3

- 1 ヨハネス・フェルメール《窓辺で手紙を読む女》(修復前)
1657-59年頃 ドレスデン国立古典絵画館
© Gemäldegalerie Alte Meister, Staatliche Kunstsammlungen Dresden, Photo by Herbert Boswank (2015)
- 2 ヨハネス・フェルメール《窓辺で手紙を読む女》(修復後)
1657-59年頃 ドレスデン国立古典絵画館
© Gemäldegalerie Alte Meister, Staatliche Kunstsammlungen Dresden, Photo by Wolfgang Kreische
- 3 ドレスデン国立古典絵画館 © SKD, photo: Kreische/Boswank

大阪市立美術館の歩みとコレクション

2022年4月16日(土)―6月5日(日)

特別展「華風到来 チャイニーズアートセレクション」とあわせて、当館の歴史と主要コレクションをご紹介します。貴重な建築図面や初期の展覧会ポスターのほか、

関西の実業家たちの熱意とご厚意によって築かれた当館の所蔵品を展覧し、86年の歩みを振り返ります。



1



2



3



4



5



6



7

- 1 開館当時の外観および展示風景 昭和11年(1936)
- 2 原始美術展ポスター 昭和27年(1952)
- 3 ブラック展ポスター 昭和27年(1952)
- 4 辻愛造《道頓堀夜景》 昭和4年(1929)
- 5 橋本閑雲《諷光》 昭和18年(1943) 住友コレクション
- 6 《扇面藤萩鹿蒔絵螺鈿硯箱》 江戸時代・17世紀 田万コレクション
- 7 《人物鳥獸模様綴織覆布》 コプト・8世紀

いずれも本館蔵 会期中、一部展示替えがあります。

特別展予告

「美をつくしー大阪市立美術館コレクション」

東京会場：サントリー美術館 2022年9月14日－11月13日

福島会場：2023年3月－5月（予定）

熊本会場：2023年9月－11月（予定）

当館は改修工事のため本年秋より長期休館を予定しています。これを機に、東京・サントリー美術館を皮切りに、所蔵品を福島・熊本の全国3会場でご紹介することとなりました。本展覧会はその名も本誌と同じく「美をつくしー大阪市立美術館コレクション」。当館のコレクション第1号である橋本閑雪《唐犬》をはじめ、日本・中国の書画・彫刻・工芸による多彩なコレクションの中から選りすぐりの名品を一堂にご覧いただくまたとない機会です。

なかなか大阪へお越しになる機会の少ない3会場ご当地の方々はもちろんのこと、普段大阪でご覧いただいている皆様にも、また違った雰囲気を感じていただけるはずです。大阪市立美術館コレクションが全国3会場を巡回するこの機会を、どうぞお見逃しなく。



1



2



3



4



5

- 1 重要文化財 葛飾北斎《潮干狩図》(部分) 江戸時代・19世紀 中島小一郎氏寄贈
- 2 橋本閑雪《唐犬》(部分) 昭和11年(1936)
- 3 《茶吉尼天曼荼羅》 室町時代・15世紀 田万コレクション
- 4 重要文化財《銅湯瓶》 鎌倉時代・13-14世紀 田万コレクション
- 5 《獅子舞牙彫根付(銘八雅)》 明治時代・19世紀 カザールコレクション
いずれも本館蔵

新型コロナウイルス感染症の拡大予防対策にご協力ください

<以下に該当される場合はご来館をお断りいたします>

1. 37.5℃以上の発熱やせきなど風邪の症状があるお客様
2. ご家庭や職場、学校など身近に新型コロナウイルス感染症の感染者、もしくは感染の可能性のある方がいらっしゃるお客様
3. 体調がすぐれないお客様
4. マスクをご着用いただけないお客様

<館内でのお願い>

1. こまめな手洗いに協力をお願いします。各洗面所には液体石けんを、入口ほか各所に消毒液を設置しておりますので、ご利用ください。
2. 近距離での会話は、飛沫感染の恐れがありますので、展示室内での会話はご遠慮ください。
3. 展示室内の混雑を緩和するため、やむを得ず入場制限を行う場合があります。また、過度な混雑が見込まれる場合は、入場をお断りする場合があります。

従来とは異なる新たな鑑賞スタイルでご不便をおかけいたしますが、ご協力のほどよろしくお願いたします。

◆表紙作品紹介

島成園《上海娘》 大正13年(1924) 本館蔵

旗袍(チーパオ)を身に纏い、中元節で使用される蓮形の提灯に蠟燭を立てようとする一人の少女。まっすぐに切りそろえられた前髪や、ふっくらとした頬には幼さが残ります。大正年間に上海を訪れた大阪出身の女流画家・島成園(1892-1970)によって、何気ない一瞬の情景がエキゾチシズム豊かに表されています。

大阪市立美術館 天王寺公園内
Osaka City Museum of Fine Arts

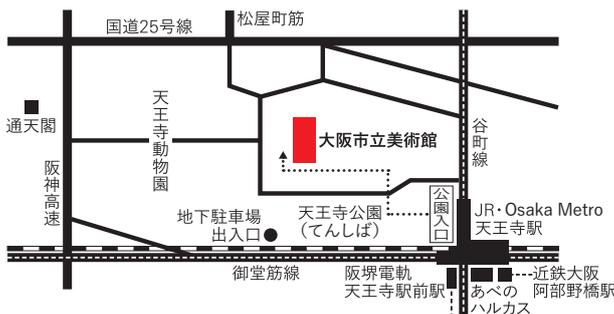
〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-82

tel. 06-6771-4874 fax. 06-6771-4856

<https://www.osaka-art-museum.jp>

開館時間＝9:30～17:00(入館は16:30まで)

休館日＝月曜日(ただし月曜日が祝日の場合は翌平日)



交通案内:Osaka Metro 御堂筋線・谷町線、JR「天王寺」、近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」、阪堺電軌上町線「天王寺駅前」下車、または大阪シティバス「あべの橋」下車、北西へ約400m